

サンティアゴ巡礼路が生み出す多様な主体の繋がり

卒業論文発表会 山口ゼミ 4年 岩本 夏実

【卒業論文要旨】

サンティアゴ巡礼路（通称カミーノ）とは、スペイン北西部のガリシア州にあるサンティアゴ・デ・コンポステラ *Santiago de Compostela* に至る道としてヨーロッパ中に張り巡らされているキリスト教の巡礼路のことである。中でも「フランス人の道」は最も巡礼者が多く整備が進んでいるため、本研究でも取り上げる。

本研究ではサンティアゴ巡礼路における多様な主体の繋がりに関して、「モノを介したやりとり」という観点から論じたい。3章では自治州やスペイン国家が巡礼路上に置いたモノについて、行政側の意図を含めて説明した上でそれらと巡礼者との関係について述べる。4章では教会や友の会が形成したモノについて論じる。中世から巡礼を支えてきた教会が現代ではどのように巡礼者と関わっているのかという点について、モノを介した交流の事例を挙げつつ紹介し、巡礼者の信仰心に関わらず幅広く考察したい。次に友の会がカミーノに残すモノについて触れ、日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会を例に友の会が巡礼者とのような影響を与えあうのか説明する。5章では巡礼者同士の交流について論じる。まず巡礼者の多様性を表す事例を挙げ、彼らが歩く中でとる様々な行動について紹介する。次に巡礼者間の交流でやりとりされるモノについて説明し、彼らを取り巻く贈与の関係について論じる。

6章ではそれまでの章で取り上げた数々のモノが収斂した「場所」について考えたい。ここでは道標やバル、アルベルゲの事例を挙げ、それらの場所を舞台にしたモノの集積ややりとりについて事例を紹介する。7章では SNS のインスタグラムを利用した調査を紹介する。それまでの章で紹介したモノや場所に関して、巡礼者のカミーノに対するイメージがどのように切り取られているのかを知り、巡礼者にとっての印象的なシーンを探ることとする。

【発表構成】

1. フィールドの概要
 1. 1. 地理
 1. 2. 歴史
 1. 3. 徒歩巡礼者について
2. 研究目的と研究方法
 2. 1. 先行研究の課題と研究目的
 2. 2. 研究方法
 2. 3. 本発表の構成
3. 継起的なやりとり
 3. 1. 多様な巡礼者との出会い
 3. 2. 巡礼者を支える人々・自然との出会い
 3. 3. インスタグラムに見る巡礼者が残したいモノ
4. 再起的なやりとり
 4. 1. 巡礼手帳
 4. 2. 道標における繋がり
 4. 3. バルやアルベルゲでの繋がり
5. 考察
 5. 1. 両者の比較
 5. 2. 考察

6. 本研究の課題

-----主要参考文献-----

岡本亮輔 2011 「聖なる遺骸の置かれるところ：巡礼ツーリズムのアトラクション」『現代宗教』pp. 130-153, 国際宗教研究所/栗山昌子 2007 「王政末期からフランコ体制下のスペイン観光振興策」『福岡国際大学紀要』17: 47-55/財団法人自治体国際化協会『スペインの観光政策』

(http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/322.pdf) 最終閲覧日：2019年12月23日/立石博高 2015 『概説近代スペイン文化史：18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房/土井清美 2015 『途上と目的地：スペイン・サンティアゴ徒歩巡礼路：旅の民族誌』春風社/柳宗玄 2011 『柳宗玄著作選6：サンティアゴの巡礼路』八坂書房/ローラ・パツラ・クラヴィオト、大津乃子訳 2018 「そして欧州はコンポステラの巡礼路を創造した」『ル・モンド・ディプロマティーク仏語版』8月号 (<http://www.diplo.jp/articles18/1809-03Compostelle.html>) 最終閲覧日：2019年12月23日/NPO法人日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会 2017 『聖地サンティアゴ巡礼増補改訂版：世界遺産を歩く旅』ダイヤモンド社/Albergues del Camino de Santiago

(<http://www.alberguescaminosantiago.com/albergues/>) 最終閲覧日：2019年12月23日/Consejo Jacobeo “DIRECTRICES PARA LA SEÑALIZACIÓN DEL CAMINO DE SANTIAGO” 2018. (<http://www.culturaydeporte.gob.es/dam/jcr:3baa012b-b976-4887-84e6-43b2ded1a568/directrices%20se%C3%B1alizacion.pdf>) 最終閲覧日：2019年12月23日/Ministerio de Cultura y Deporte “Consejo Jacobeo”

(<http://www.culturaydeporte.gob.es/cultura/areas/cooperacion/mc/consejo-jacobeo/consejo-jacobeo.html>) 最終閲覧日：2019年12月13日/Ministerio de Cultura y Deporte “Consulta a la base de datos de bienes inmuebles”

(<http://www.culturaydeporte.gob.es/bienes/cargarFiltroBienesInmuebles.do?layout=bienesInmuebles&cache=init&language=es>) 最終閲覧日：2019年12月13日/Sasha D. Pack. 2010. Revival of the Pilgrimage to Santiago de Compostela: The Politics of Religious, National, and European

Patrimony, 1879-1988. The Journal of Modern History. 82(2): 335-367, The Persistence of Religion in Modern Europe

表 1 関連年表[立石(2015)等をもとに発表者作成]

9世紀初頭に聖ヤコブの遺骸発見→聖地として12世紀に人気のピーク→14世紀以降ベストや戦乱のため低迷、ヤコブの遺骸も紛失→1879年にサンティアゴ大司教のもと「再発見」→フランコ体制期から観光資源化					
国家の状況、観光政策など	「聖地サンティアゴ」に関する動き	巡礼路に関する動き	国家の状況、観光政策など	「聖地サンティアゴ」に関する動き	巡礼路に関する動き
1923	プリモ・デ・リベラのクーデタ		1959	経済安定化計画、自由化・対外開放政策	
1926	幹線道路網の建設と国営宿泊施設の工事開始		1960	第二グアチカン会議→「開かれた教会」	
1928	全国観光委員会(PNT)設置 最初のバラドール開業		1961	60年代スペイン観光ブーム	「汎ヨーロッパ主義と巡礼路」の論文コンテスト
1929	通訳ガイドサービスの法制化	『カリクストゥス写本』西語版出版	1962		エステリャでカミーノ友の会設立
1931	第二共和政成立		1963	GATT加盟	
1932	カタルーニャ自治憲章		1964		レオンのバラドールが完成
1933	右派政権成立	40年代までの巡礼者の傾向=徒歩ではなく車やバスでの巡礼が多い	1965	大学生連合SEU廃止	300km以上完歩者に証明書発行開始 サントドミンゴのバラドールが完成 聖年の様子がEU各国で報道される 情報観光大臣が巡礼路整備を推進
1934	アストゥリアス録記		1970	総合教育法	この年発行された巡礼証明書は68枚
1936	スペイン内戦勃発		1971	70-80年代=独裁から民主主義への移行期	
1937			1975	フランコ死去	
1938*	Servicio Nacional de Turismo創設	ピウス11世が例外で聖年にした	『カリクストゥス写本』仏語版出版	1976	政治改革法
1939	内戦終結、フランコ体制、観光庁創設		1977	文化省設立	
1940	40年代までのフランコ体制=政教一致	"Historical artistic monument"に認定	1978	新憲法=民主的、地方自治	憲法の規定で観光プロモーションと観光整備は当該自治州が担当
1941	1940年代~50年代の聖堂発掘調査に資金提供		1979		
1942		巡礼に関する論文コンテスト	1980	労働法改正	80年代友の会激増
1943			1981		ガリシア政府が巡礼路の宣伝をする
1946	事実上国際社会から孤立		1982		教皇サンティアゴ訪問
1948		青年団体JAC、大学生連合SEU大規模巡礼	1984		ブルゴス大聖堂、世界遺産登録
1950	50年代にはすでに民衆の脱宗教化始まる	巡礼を宣伝したいという教会側の要請を受けフランコが観光推進	パリでカミーノ友の会設立	1985	「スペイン歴史的遺産についての法律」制定(94年改正)
1951	情報観光省創設		1986	EC加盟	サンティアゴ大司教区が統計開始
1952		巡礼路の整備開始	1987		カミーノ友の会連合結成、欧州評議会に「ヨーロッパ初の文化的街道」とされる
1953	政教協約		1989		教皇サンティアゴ訪問
1954			1991		聖ヤコブ評議会設立
1955	国連加盟		1993		巡礼路、世界遺産登録

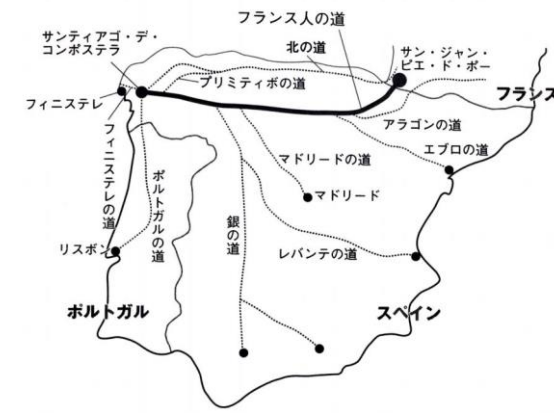


図 1 イベリア半島を走る複数のサンティアゴ巡礼路[土井 2015: 48]



図 2 「フランス人の道」[土井 2015: 49]

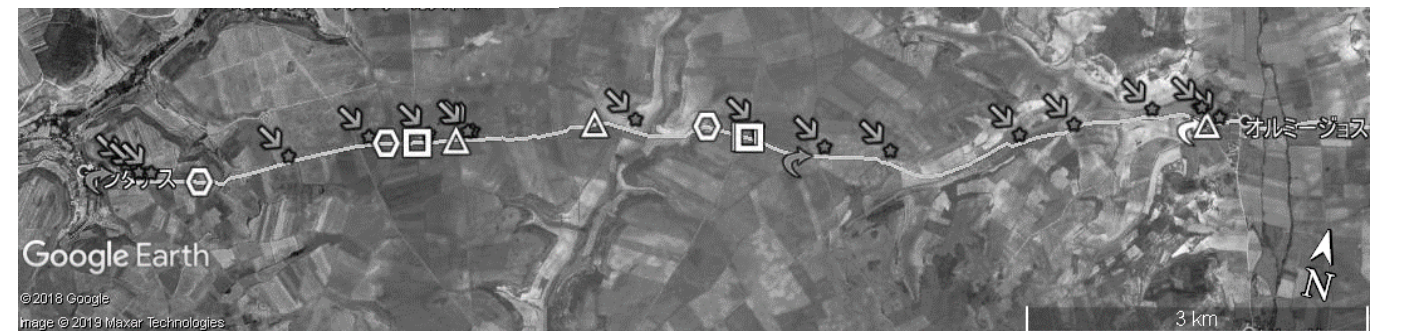


図 3 オルミージョス・デル・カミーノ～オンタナス間約 10.5km にある道標（カスティールヤ・イ・レオン州）[GPS データを Google Earth 上にプロット]

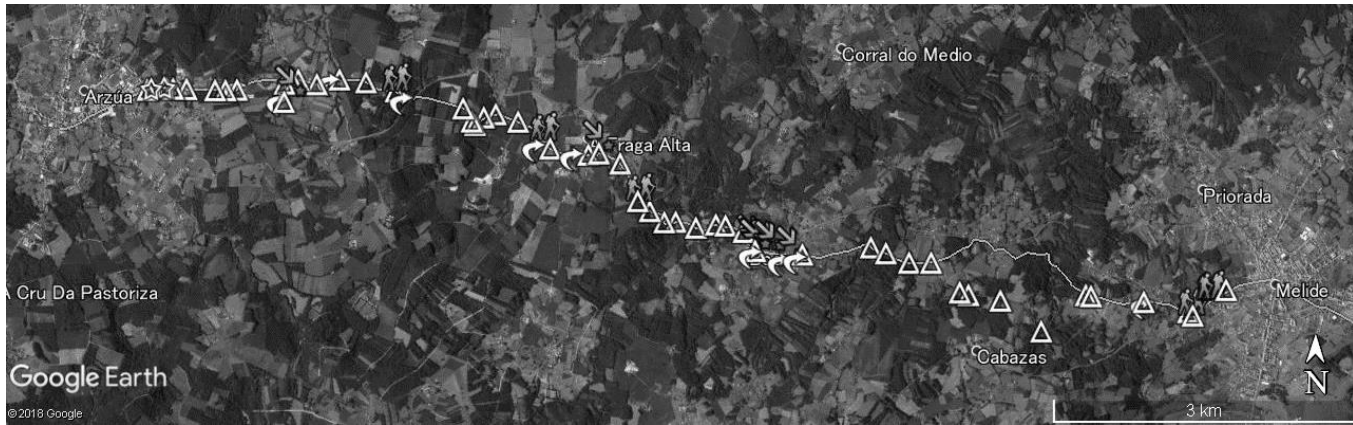


図4 メリデ～アルスーア間約13.6kmにある道標（ガリシア州）[GPSデータをGoogle Earth上にプロット]

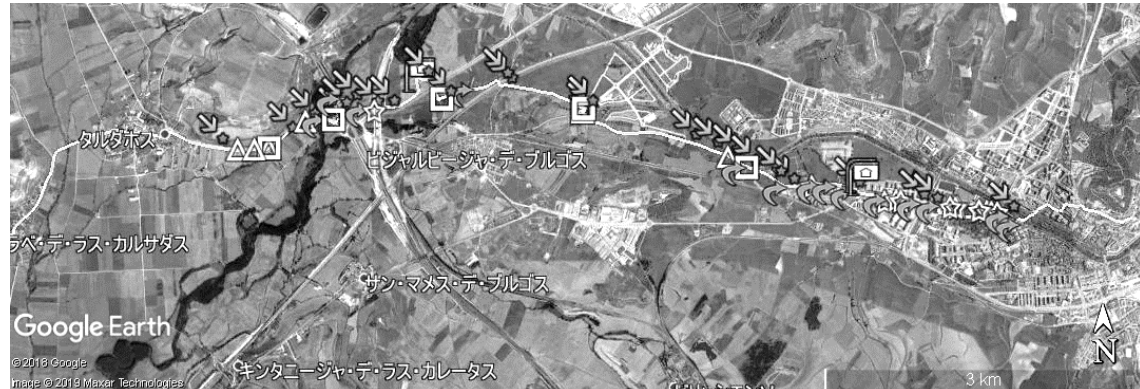


図5 ブルゴス～タルダホス間約10.8kmにある道標（カスティーリャ・イ・レオン州）[GPSデータをGoogle Earth上にプロット]



図6 ラ・ファバ（カスティーリャ・イ・レオン州）～オ・セブレイロ（ガリシア州）間約10.8kmにある道標[GPSデータをGoogle Earth上にプロット]

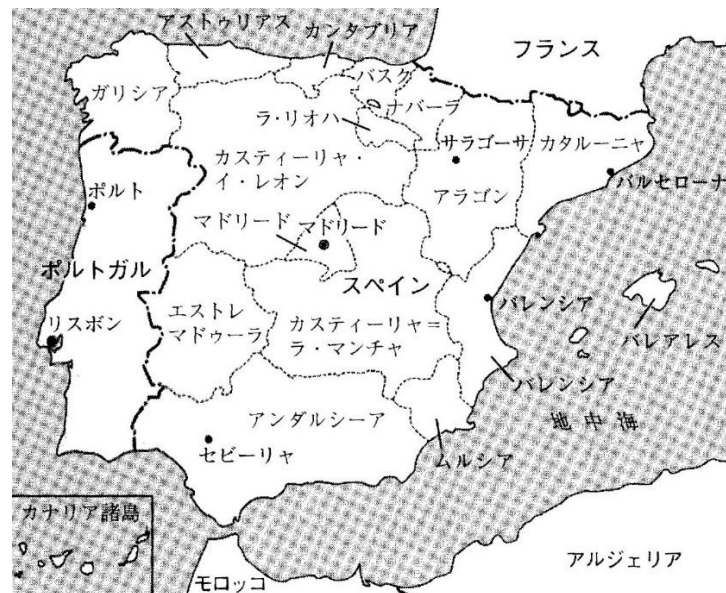


図7 現在の自治州 [立石 2015: 135]

- 凡例： 手書きの矢印 帆立貝のプレート 巡礼者のアイコン付きの看板 矢印と帆立貝の看板
- その他の看板 モホン 木札 石積み ランドマーク

表2 巡礼者へのインタビュー「巡礼の動機」(括弧内はインタビューの場所)

日本人男性	「何かを見つけるため」に歩いている。多分皆そうだろう。ヨガや座禅や心理カウンセリングの時に意識がずっと落ちる感覚に巡礼は似ている。(バルにてインタビュー)
韓国人男性	3年前にも来たが、なぜ2回も歩いているのかわからない。(一緒に歩いている途中に聞いた)
サウジアラビア人男性	他の宗教について知りたかったのでカミーノを含め世界中を回る予定。例えばパリやリスボンなどの都市を1人で旅するのは違って、カミーノでは様々な人と交流できる。歩く理由は人それぞれで、僕が理由を尋ねると泣き出してしまう人もいた。(一緒に歩いている途中に聞いた)
日本人男性	本を読んで巡礼路について知った。(アルベルゲのラウンジにてインタビュー)
韓国人女性	韓国では3人の俳優がカミーノで韓国人巡礼者に料理を振る舞う番組が人気なのでカミーノが流行っている。(アルベルゲの洗濯場にてインタビュー)
韓国人男性	仕事で悲しい出来事があったのでストレスを感じ、それを癒すためにカミーノに来た。(一緒に歩いている途中に聞いた)
オーストラリア人男性	個人的な理由のために来た。(アルベルゲのラウンジでインタビュー)
イギリス人男性	約20年前にテレビでサンティアゴ巡礼を知ってから行きたいと思っていた。(レストランでの昼食時にインタビュー)
イタリア人女性	以前息子がカミーノに行っていて楽しそうだったから。(アルベルゲでの夕食時にインタビュー)
スペイン人女性	ある日目覚めたら「カミーノに行かなきゃ」と思ったから。(アルベルゲでの夕食時にインタビュー)
スペイン人男性	カミーノが好きで11年かけて11万キロメートル歩いた。(アルベルゲでの夕食時にインタビュー)

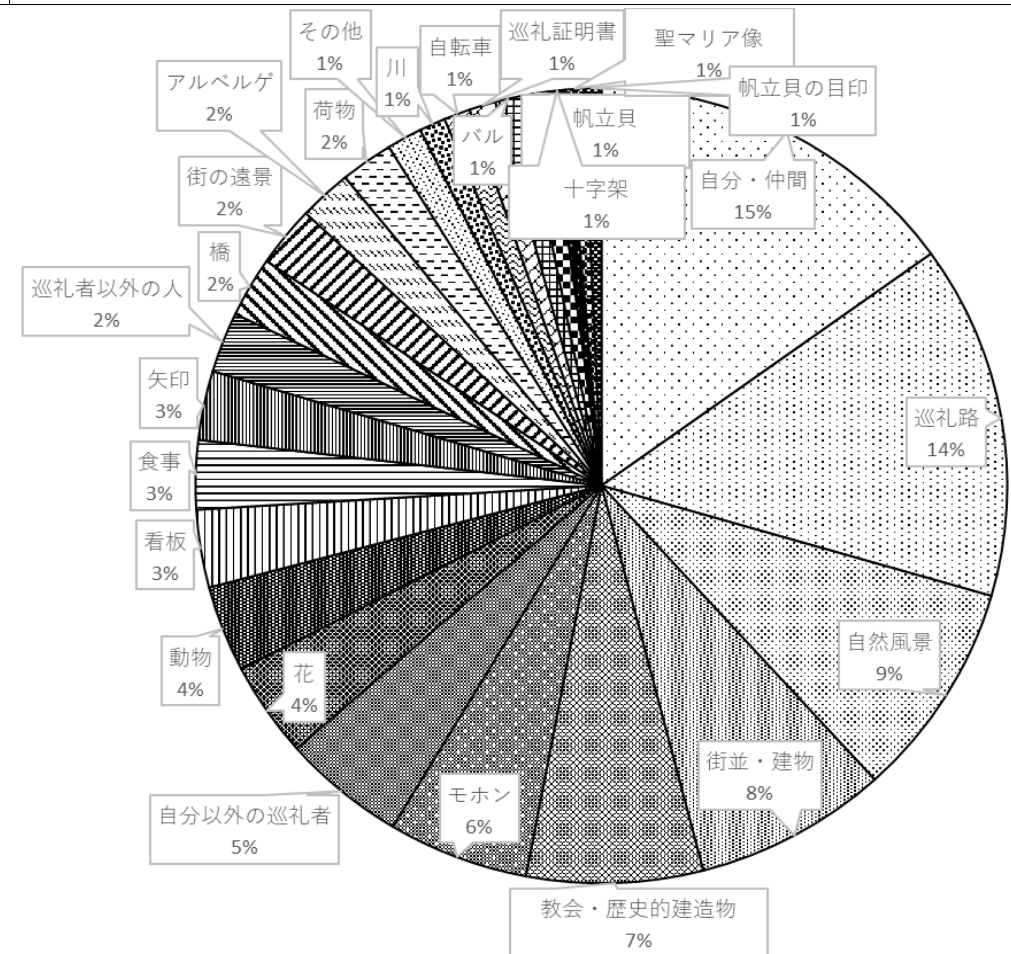
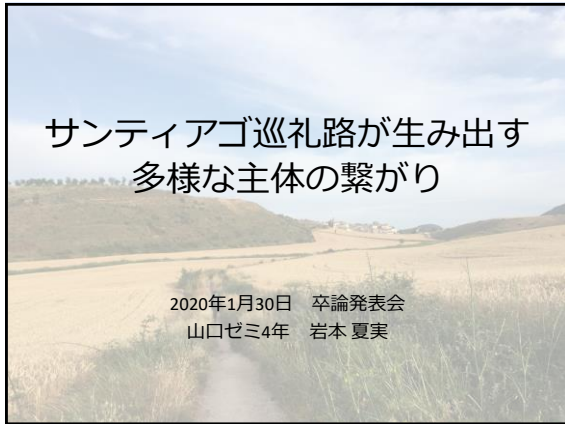


図8 インスタグラムで#caminofrancesと検索してヒットした画像の割合 n=285



1

1. フィールドの概要
1.1. 地理

サンティアゴ巡礼路 (カミーノ) 「フランス人の道」

サンティアゴ大聖堂

2

1. フィールドの概要
1.1. 地理

アルベルゲ 公営・教区運営 団体運営・私営 宿の世話人 (オスピタレロ)	
道標 モホン=石の道標 看板 黄色い矢印	

3

1. フィールドの概要
1.2. 歴史

- 9世紀初頭: ヤコブの遺骸「発見」
- 9~12世紀頃
 - ~12世紀: 巡礼人気のピーク
 - 14世紀~: 戦乱等のため忘れ去られてしまう
- フランコ体制
 - (フランコ以前) 1879年: ヤコブの遺骸「再発見」
 - 国家カトリック主義の下、聖地としての真正性重視
 - 巡礼路の整備
- フランコ後
 - 「欧州初の文化的街道」
 - 「ひとつになったヨーロッパ」の象徴
 - 世界文化遺産登録

4

1. フィールドの概要
1.3. 徒歩巡礼者について

巡礼証明書

5

2. 研究目的と研究方法
2.1. 先行研究の課題と研究目的

<先行研究 土井2015>
移動する身体と路上にある物質的要素とが具体的かつ個別多様な関係を生み、それらが巡礼者の徒歩経験に結びつく

<先行研究の課題>
1. 巡礼者による能動的な関係構築
2. 巡礼者の多様な背景
3. モノを介した関係構築

モノや巡礼者について厚い記述を重ね、巡礼路を舞台にした人やモノ、さらには彼らを持つ歴史や巡礼路の外にいる人々まで含めた相互の「繋がり」を描き出す

6

2. 研究目的と研究方法
2.2. 研究方法

- ✓2019/6/23~7/9 パンプローナ~レオン
- ✓2019/10/9~23 レオン~サンティアゴ
- ✓2019/11/16 日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会の懇親会にてインタビュー
- ✓インスタグラム利用した分析

7

2. 研究目的と研究方法
2.3. 本発表の構成

モノ・コトのやりとりから見る巡礼者の受動的・能動的な双方向の関係構築

①contingent(継起的・一時的)なやりとり

↑

巡礼者の多様性

↓

②recurrent(再起的)なやりとり

8

3. 継起的なやりとり
5.1. 巡礼者の多様性

巡礼の動機	レジュメ表2参照
移動方法	バスや電車を使う ↔怪我しても歩き続ける 自宅から歩く↔短い距離を歩く
歩き方	犬を連れて歩く人 ノーブランで歩く人 夜中に歩く人 撮影しながら歩く人

バスに乗り込む巡礼者

犬巡礼

9

3. 継起的なやりとり
5.1. 巡礼者の多様性

巡礼者が分け合うもの

モノ	余った食べ物 アイシングスプレー スポーツドリンク など
コト	歩き方のコツ カミーノ沿いの街に関する情報 次の日に泊まる町のアルベルゲの情報 など

多様な巡礼者との出会い・支え合いが新鮮な徒歩経験を生む

10

3. 継起的なやりとり
3.2. 巡礼者を支える人々・自然との出会い

「ワインの泉」[Bodegas Irache (https://www.irache.com/)]

寄付制の休憩所

11

3. 継起的なやりとり
3.2. 巡礼者を支える人々・自然との出会い

木の枝でできた十字架

12



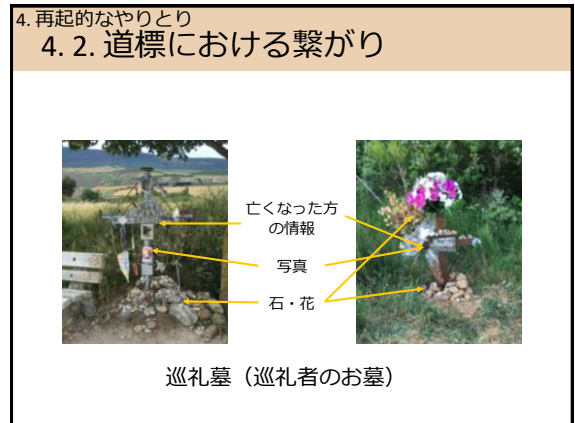
13



14



15



16



17



18



19



20

6. 本研究の課題

- ▶事例の数に限界があるため、何度もカミーノに行った人から話を聞く必要があった
- ▶カミーノに存在するモノの歴史に関して得られる情報に限界があった

21

謝辞

この研究は、一緒に歩き苦楽を共にした巡礼仲間や、面倒を見てくださったオスピタレロの皆さまの支えなくして成し得ませんでした。皆さまとの素敵なお縁に感謝致します。また、日本でインタビューに応じてくださった日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会の皆さま、フィールドワーク中に日本からサポートしてくださったスペイン語の安藤万奈先生、そしてフィールドワークの機会をくださりご指導いただいた山口先生・山口ゼミの皆さまに心から御礼申し上げます。最後に、海外でのフィールドワークを見守り応援してくれた家族や友人にも深く感謝します。

22